

いすみの海岸で衰弱 オットセイ保護

衰弱した状態で保護され、食欲が戻ったキタオットセイ(鴨川シーワールド提供)



鴨川シーワールド(鴨川市)は27日、いすみ市の海岸でメスのキタオットセイを保護したと発表した。衰弱していたが、快方に向かつており、回復を待つて放流する考え。

同館によると22日午前9時半

鴨川シーワールド

ごろ、同市岬町和泉の海岸で通行人が発見。体長110センチ、体重31・9キログラムある成獣で、外傷はなかったが食欲がなく、脱水症状もみられるなど衰弱していた。同館で保護・搬入し、口から胃へカテーテルで水分等を流し込んだり、抗生剤を注射して経過観察。翌23日からは餌を食べ始めた。

キタオットセイは沿岸から遠く離れた海域で生活しており、繁殖期以外は上陸しない。12月5月に銚子沖で回遊中の群れをみることができ、同館広報担当者「餌が採れずに衰弱して、群れから離れてしまったのではないか」としている。

同館は2006年9月にも、埼玉県川越市で発見されたキタオットセイを保護し、回復させ銚子沖に放流している。